院　長

福治康秀(ふくじ　やすひで)
1964年生まれ、那覇市出身、首里高校卒。
1993年琉球大学医学部卒、琉球大学医学部精神神経科入局。
95年那覇市立病院精神科、96年琉球大学精神神経科、2009年琉球病院精神科部長、2010年副院長を経て
2014年琉球病院長に就任。
日本病院・地域精神医学会理事。

基本理念

この病院で最も大切なひとは医療を受ける人である

＜依存症病棟15周年記念式典報告＞

平成26年12月13日、土曜日、琉球病院アルコール・薬物依存症病棟開棟15周年記念式典を開催致しました。依存症病棟を卒業（退院）した方々、各地域のアルコール依存症、薬物依存症の自助グループの方々、日ごろからお世話になっている医療、福祉等行政機関の方々、また、当院OBスタッフも含め、総勢115名のご参加を頂きました。

村上優榊原病院長（当院前院長）による特別講演「私がともに歩んだアルコール・薬物依存支援の道～40年を顧みる～」では、現在の当院アルコール・薬物依存症病棟の礎が創られた道のりとも重なり、今後の依存症治療・支援や病棟のあり方に力や勇気をいただける有意義なお話しでした。そして、沖縄県の依存症医療の中で担うべき当院の役割を改めて認識し、その責任を強く感じる内容でした。この15周年記念式典のプログラムのもう一つの目玉となったのは、病棟を卒業（退院）された方々が一堂に集い、懐かしいスタッフとともに互いに回復の道のりの労いあうことができたことです。式典では卒業者、そしてその家族8名の方に回復の道のりの体験談を語って頂きました。様々な環境で葛藤しながらも病気を受け入れ、苦悩し奮闘するその体験や姿には胸を熱くし心を打つものがありました。私たちが依存症病棟で出会う患者さんには、一人ひとりに色々なドラマがあります。回復の道を一歩踏み出すにはご本人にもご家族にも大きな決断があり、その道を歩き続けていくことも並大抵のことではないと思います。私たち医療が関われるのは長い回復の道のりのほんの一瞬にすぎませんが、その一瞬でも寄り添えたことに看護のやりがいを感じ、それこそがアルコール依存症看護の醍醐味であることをこの式典を通して改めて感じました。それぞれの15年を振り返ることで、当病棟のこれからの役割と新たな一歩を踏み出す力となりました。今後とも皆様のご指導、ご支援をいただけますようよろしくお願いいたします。

診療科

- 一般精神科
- こども心療科
- 物忘れ外来
- アルコール依存症等外来

病床数 406床

精神科病棟	181床
認知症	50床
アルコール	54床
児童思春期ユニット	4床
重症心身障がい	80床
医療観察法	37床

那覇市からのアクセス

●アクセス
路線バス／那覇BS（下り）または名護BS（上り）より沖縄バス「77番名護東線」浜田バス停下車徒歩3分
自 動 車／那覇市から40分
沖縄自動車道金武インターから名護向け5分

トピックス

行事・出来ごと

●病棟等建替整備の動き

進捗状況　本体工事：請負業者		
電気設備	・・・・・・	(株)九電工
機械設備	・・・・・・	(株)三建設備工業
建築(第１期)工事	・・・	(株)淺沼組
建築(第２期)工事	・・・	(株)淺沼組

教育・研修

●第40回琉球セミナー　平成27年2月13日金曜日　13:00 ～ 16:00　琉球病院研修棟3階大会議室
シンポジウム「東日本大震災の心のケアを振り返る」～地元支援者とともに必要な支援を考える～
座長:村上優先生(榊原病院長)　シンポジスト:岩手県宮古市 宮古保健センター保健師
宮古地域こころのケアセンター看護師
宮古市国民健康保険田老診療所看護師

●ミニコンサート　平成27年2月12日木曜日　14:00 ～ 15:00　琉球病院あしびなぁ体育館
フルート演奏他

地域医療連携室だより

当院は、医療観察法の指定入院医療機関であり、通院決定又は退院決定を受けて地域で生活している期間中は、医療観察法と精神保健福祉法が適用されます。精神保健福祉法に基づく入院の期間中も、精神保健観察は停止することなく続けられ、指定通院医療機関や保護観察所は、本人が入院している医療機関と連携していき退院後は、指定通院医療機関で通院が再開されます。再他害行為を起こさないために手厚い支援を行っています。

空床状況　1月26日現在

精神科病棟	認知症	アルコール	児童思春期ユニット
12床	4床	8床	2床

※ 入院予約に関するお問い合せは地域医療連携室へご相談下さい。

お問い合わせ時間
8:30～17：15（土・日・祝日以外）
TEL：098－968－2133（代）
内線：231・234
FAX:098－968－7370
地域医療連携室直通

〒904－1201　沖縄県国頭郡金武町金武7958－1　代表電話　098－968－2133　地域医療連携室
http://www.hosp.go.jp/～ryukyu1/　ＦＡＸ　098－968－2679　ＦＡＸ　098－968－7370

治療抵抗性精神疾患への医療

クロザピンの治療状況

平成22年2月に1例目の投与を開始し、全症例は126例になりました。12月の新規導入は1例でした。重度の精神症状を持った患者様が回復され、その退院数も60例を超えています。クロザピン専門外来も3回/週行っており、患者様のご相談をお待ちしています。

m-ECTの治療状況

当院では、県立北部病院麻酔科のご協力の下、m-ECTによる治療を行っております。平成26年12月の治療実績4例であり、各症例とも改善傾向が認められております。

こども心療科

これまでこども心療科では医師・看護師・心理療法士・ソーシャルワーカーなど多職種でこどもたちの支援を行ってきましたが、1月より新たに言語聴覚士が加わりました。言語聴覚士が加わったことで「ことばが出ない」「ことばの遅れがある」「お話しているけど発音がはっきりしない」「吃音が気になる」など、こどものことばの発達に関する相談・評価・リハビリをトータルで行えるようになりました。当面は火曜・水曜・木曜の週3日、言語訓練を実施します。ことばの発達に関して評価及び治療を希望される方は地域医療連携室にまずご相談下さい。

認知症医療

＜金武町認知症講演会のお知らせ＞

金武町包括支援センター主催により、２月２４日（火）18:30～20:00 金武町中央公民館大ホールにて認知症講演会が開催されます。当日は金武町婦人会、認知症サポーター（キャラバンメイト）、金武町包括支援センター、琉球病院で協力し、認知症の基礎知識や予防、介護方法のレクチャーだけでなく、寸劇なども予定しています。また私達琉球病院は、認知症疾患治療専門病棟の紹介や受診の流れ、早期受診・早期診断・早期治療のメリットについてご説明致しますので、地域住民及び関連機関の皆様、ぜひお誘い合わせのうえご参加ください。お待ちしております。

重症心身障がい児医療

平成24年4月、障害福祉サービスの支給決定プロセスが見直され、相談支援事業所による計画相談支援の対象が大幅に拡大されました。当病棟に入所されている利用者の大半は、障害福祉サービスの中の“療養介護”の支給決定を受けています。平成24年4月のプロセス見直しを受けて、当病棟の入所者も平成27年3月までに計画相談支援を導入することとなり、今年度、重点的に取り組んでいます。当病棟の入所者は、障がい特性と病状により長期の療養生活を送っており、病棟内で支援が完結してしまいがちです。しかし、地域福祉の根幹を担っている相談支援事業所が利用者支援の輪に入ることで、地域との繋がりやご家族への相談体制、関連機関との連携がより一層充実していくと思われます。今後も引き続き、利用者一人ひとりの状態やニーズを把握し、更に地域との繋がりを大切にした支援を提供していきたいと考えます。

アルコール・薬物依存医療

平成25年5月27日、アルコール依存症の新しい治療薬「レグテクト」が発売となりました。レグテクトは、アルコール依存症の方の強い『飲酒欲求』を直接和らげてくれる作用があります。当院では12月現在、外来通院の患者様70名、入院中の患者様25名の方が服用されています。内服している方は「飲酒欲求が軽減した」と話され、再飲酒の抑制につながっています。当院での実際の効果を判定するための調査を行う予定です。患者様へは、適宜導入を勧めています。断酒が困難な方は、ぜひ外来を受診し相談して下さい。

包括的地域精神医療（ACT）

寒暖の差が大きくなり、体調管理に気を使う月でもあります。インフルエンザが段々と猛威を振るい、南部から北部へ流行をしていきます。訪問看護スタッフも自己管理に気をつけるように嗽いや手洗い、十分な休養をとり、体調が悪いときには人ごみに近づかないようにしています。訪問対象者の皆様にも風邪予防に努めるよう啓発運動を展開します。身体の病気をすることで、ストレスが高くなり、普段の生活が行えないことで、精神症状にも影響が出てくる場合もあります。訪問対象者の皆様で風邪にならない有効な方法（健康法）、食べ物などがあればアドバイスをください。各個人により対処法は違いますが、一度試してみるのも良いのではないかと思います。

訪問看護状況は、外来通院の方が訪問看護を導入する方も増えてきました。日頃の生活の中で、日常生活を営むこと、病気と仲良く付き合える方法を一緒に考えてみることも今年の新たな目標としても良いのではないかと考えています。各主治医へ一度ご相談されてはいかがでしょうか。

臨床研究部活動状況

統合失調症認知機能簡易評価尺度日本語版（BACS-J）の紹介②

去る12月9日に医療法人翠松会岩城クリニック院長兼田康宏先生をお招きし、BACS-J（The Brief Assessment of Cognition in Schizophrenia）のご講演をしていただきました。統合失調症では、精神症状に加え、認知機能障害が生じること、その治療のためにアセスメントが重要であり、BACS-Jが評価ツールとして有用であることなどわかりやすく説明していただきました。また、検査場面ビデオを見たり、デモンストレーションを通して丁寧にご指導いただきました。BACS-Jを使用すれば、服薬や心理社会治療による認知機能の変化や効果判定を短時間で簡便に実施することができ、かつ精度の高い結果を得られることが可能となることがわかりました。

〒904－1201　沖縄県国頭郡金武町金武7958－1　代表電話　098－968－2133　地域医療連携室
http://www.hosp.go.jp/～ryukyu1/　ＦＡＸ　098－968－2679　ＦＡＸ　098－968－7370